

丹波市
地域おこし
協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

自然エネルギーの地域循環をめざす

阪口 明美さん vol.37

経歴：大阪府出身。森林大学で林業の現状を知り、林業の世界に飛び込むことを決意。オーストラリア・ベトナムへの移住経験あり。任期：平成31年1月～



こんにちは。平成31年1月から地域おこし協力隊として活動している阪口です。市民が主体となって森林整備を進める「丹波市木の駅プロジェクト」実行委員会の事務局を担って、はや1年が経過しました。今年度はチャレンジの年だったと思います。

出荷ルールの変更や、木の駅プロジェクトでの薪販売、木の駅女子部の立ち上げなど、参加メンバーと共に協力し合い、様々な活動に取り組みました。

薪作りは、南油良ストックヤードに出荷された間伐材をチェーンソーで玉切りし、薪割り機で割り、割った薪を崩れないように積んでいくという作業を分担して行っています。当初は慣れない作業に時間がかかりました

が、今では実行委員の皆さんとあうんの呼吸で作業ができるようになりました。そして嬉しいことに、薪の注文もたくさん入るようになり、また木の駅プロジェクトの参加者も増えてきました。

地元の方が出荷した木材が薪などのエネルギーになり、地元で消費される、このようなエネルギー循環を次世代につなげられるよう、今後も活動を広げていきたいと思っています。



山から木を切り出す阪口隊員

市長コラム
丹波語り

小学生が考える
「町の幸福論」



12月4日、ご招待を受けて、西小学校6年生の国語の授業「町の幸福論」を観させて頂きました。29名の児童が6班に分かれ「将来はこんな町になったらいいな!」という葛野地区の未来の姿を思い描き、町を良くするための提案を発表しました。各班の発表テーマは次の6つです。
①高齢者・障がい者とふれあいの機会を作り、絆を深める
②ごみの削減で過ごしやすい地域を作る
③総合グラウンドの利用を住民自らが演出し、愛着を持って維持管理する
④防犯・安全で明るいまちづくり
⑤自然を活用して、市外の人を呼び込む
⑥多世代の人が楽しめるお祭りを実施する
小学生の頃から社会問題に気づくことはなかなか難しい

丹波市長谷口進一



のですが、関心を持つきっかけづくりはとても貴重だと思いました。このような学びをした子どもさんは必ずや成長するに当たって視野が広がっていきま。国内にとどまらず地球規模の課題に挑戦しようとする人も、この中から何人か出てくるかもしれません。後で振り返れば「あの時の授業が今の私の原点でした」と、20年後にそんな丹波人が出現したら嬉しいですね。
ランチルームで一緒に給食をいただいた時に「未来はあなたたちのもの」という話をしました。明るい未来を信じ、それに向かって前向きに歩んでほしいと願います。